

第5回 ひとにやさしいまちづくりカフェ 聞き書き記録

記録：星野広美・鬼頭弘子

ひとにやさしいまちづくりカフェ（とりあえず、ひとまちカフェと呼んでいます）の5回目を、10月5日（金）の夜、開催しました。

参加者は、お話をお願いした村居多美子さんを含めて、15名。なかなか参加者数が伸びません。当日参加者だけでなく、お話しいただいた内容を記録化し、公開することで、多くの方に共有していただく…と言っても、「直接聴き話す」という関係は、大切だと思っていますので、やはり、もう少し多い方がいいかな、と。ただ、「直接聴き話す」という関係を保つには、20～30人程度までだと考えています。

記録は、ひとまち東海のHPに暫定版をアップし、その後、確定版をまとめて記録集として発行していきます。

村居さんの活動は、四半世紀。村居さんは、「地域ニーズ」と言っていますが、そのときどきの風を捉えての活動展開が、今の「さくら」に至っています。

今回の村居さんのお題は、「高齢者の住まい方が変わる」です。



星野広美の趣旨説明の後、村居さんのお話へ。

村居さんは、こういうのがあったらいいな、と、地域ニーズを一つずつひき上げていった結果と言ってみえます。「さくら」のパンフレットを作って、こんなにやっているんだ、と改めて思ったとか。

ディサービスを7ヶ所していて、そのうち3ヶ所を小規模多機能型居宅介護施設にしているが、7ヶ所とも、10人にこだわっている。顔の見えるように、と。

国の制度では、10人のディサービスで、3.5人のスタッフが必要と言うが、さくらは、5～6人付けている。

この介護の仕事を始めた最初は、昭和62年（1987年）。今年で、26年め。

「くらし助け合いボランティア」として有償ボランティアからスタートした。働くお母さんたちを助けて、と始めた。人が好き、世話を焼くことが好きの2つで今日までやってきた。

介護保険は、2000年4月にスタートした制度で、同じ年の10月に、さくらを法人化。4月から10月の間に、NPOって何か？と、ニューヨークやワシントンの本場で勉強した。

くらし助け合い活動は、法人格を取らないで、「基準該当」で介護保険をやりたかったが、名古屋市が認めない。そこで、「非営利特定活動法人」に。

介護サービスさくら年表より

平成12年4月

介護保険法がスタート

平成12年8月10日

特定非営利活動法人として認証を受ける

平成12年10月1日

介護保険事業所オープン

「小規模多機能型居宅介護」健康長寿ネットより
<http://www.tyojyu.or.jp/hp/page000000800/hpg00000779.htm>

「くらし助け合い活動」介護サービスさくらより
http://www.kaigo-sakura.com/03_kurashi/index.html

「基準該当サービス」ケアマネ試験対策室より
<http://yougo.caremane2.biz/ent98.html>

若いお母さんを支援していきたい。生後2ヶ月後から、赤ちゃんも、癒しのボランティアとして居る。そのお母さんは、理学療法士として働く。すると、赤ちゃんや高齢者にも役割が生まれる。

地域にあって、利用者が家から歩いて来られるような、スタッフもお昼休みに家に帰れるようなところがいいなあ。

初めは普通の訪問介護とディサービスだったが、高齢者も歳をとって、お泊りできるように…こういうのがあったらいいなあ〜、と。

そんな前振りの後、パワーポイントを使ってのお話が始まりました。



高齢者の住まい方が変わる

村居多美子さん
NPO 法人介護サービスさくら

さくらの取り組み

「高齢者安否確認」は、8年前から、本地荘（名古屋市守山区にある名古屋市営住宅）で、始めている。

「ルームシェア」は、今年も募集している。

「見守り大家さん」は、民間マンションで空き家が増えて入居者がいなくて、大家さんが困る。高齢者の入居してもらい、その生活を、家主とNPOが連携して支援していこう、と始まった。

名東区で、「グループホーム」もしている。「サービス付き高齢者向け住宅」も始めている。どんどん制度が変わってきている。

高齢者安否確認

本地荘は、市営住宅1棟を、ほぼバリアフリーに丸ごと改装している。市営本地荘25棟の次に、市営本地荘23棟の入居者を募集している。2棟あわせて、100戸。うち、さくらが事務所として1戸使い、高齢者世帯99世帯が入居する。

入居者は、約束事として、朝10時に、ボタンを押してもらう。監視盤のランプが点いていないところから安否確認をする。ボタンを押せない状況にあるかもしれないと、見回りを始める。

見守りスタッフは2人体制で、一人が住宅内を見回り、事務所には必ず一人居る。

名古屋市が、この事業でさくらを信頼しているのは、スタッフが当初からずっと同じ人だということ。1人が健康を害して辞めたが、5人が続けている。入居者は、それぞれ相談する人が決まっているようだ。

見守りスタッフには、1ヶ月で5～6万円の収入がある。

ルームシェア

集合住宅の1つの住戸を高齢者3人でシェアする。入口は1つで、中を3部屋に、改装する。リビング、トイレ、風呂は共有。各部屋には物入れが1ヶ所つく。ここで共同生活をする人を募集している。

共同生活のルールづくりや、見守りに、さくらがスタッフを派遣し、関わっている。

本来、名古屋市が市営住宅として1世帯に貸す1住戸を、目的外使用として、NPOへ貸し、NPOが各入居者とサービス付き入居契約を結ぶ。

日常生活相談の業務があるので、ケアマネージャーが1人付いて相談に応じる。

市営住宅における高齢者共同居住事業について

http://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/cmsfiles/contents/0000038/38502/koureisha_kyoudoukyou_aishou.pdf

見守り大家さん

一般の民間マンションだが、世話焼きの大家さんがいる、という設定。

何かオカシイというとき、マンションを持っている大家さんから、愛知共同住宅協会へ連絡が来る。そこからNPOへ繋げてくれる。大家さんへフィードバックしていく。

さくらがはじめた事例が、愛知県では初めての事例となるが、これから、愛知県内各地で進められる。

見守り大家さん 社団法人愛知共同住宅協会

<http://mimamori-oya.jp/index.html>

よってたも〜れ さくら一番館

三重県の実家では、私の祖母が、「よってたも〜れ」「あがってたも〜れ」という話しぶりで、それを子どもの頃から聞いていて、耳から離れなかった。そこから、さくらでは、「よってたも〜れ」と名付けた。

1階は、小規模多機能型居宅介護。2階は、グループホーム。3階は、サービス付き高齢者向け住宅。

これが、「よってたも〜れ さくら一番館」。

小規模多機能型居宅介護

ここへは、自分の家から通う。ディサービスに来られないときには、スタッフが自宅へ出かけていく。家族が介護に疲れていると、さくらに泊ってもらう。要介護4や5だと、泊まりが長くなる。

お雛様、お正月、…。季節に合わせて、飾り付けや催し物をする。

認知症対応型共同生活介護

グループホーム悠々

認知症の人は、グループホームへ入居する。さわやか福祉財団のインストラクターをしていて、全国を回っている。その中で見た神奈川県藤沢市の「ぐるーぶ藤」、そのプランをそのままいただいて建てた。

ぐるーぶ藤では、オーナーが色にこだわっていた。そこで、色彩心理コーディネーターをお願いしたところ、「最初から関わりたい」、ということで、さくら一番館建設の、設計段階から関わってもらった。

黄色は、排泄を促す。なので、トイレの床は黄色にした。オレンジ色は唾液の分泌を促す。なので、食堂の家具はオレンジ色を使った。色には、理由がある。

NPO法人 ぐるーぶ藤

<http://www.npo-fuji.com/>

さわやかインストラクター

http://www.sawayakazaidan.or.jp/jigyouchiik_inetwork/instructor.html

サービス付き高齢者向け賃貸住宅

ゆめみぐさ

家族が東京など遠方において、1人では置い

ておけない…ということで入居してくる。ここには、俳優の大和田獏さんのお母さんが入っている。今日は、岡江久美子さんが来ていた。この前は、大和田信也さんご夫妻が来た。サービス付き高齢者向け賃貸住宅であるが、終の棲家として選んでいただいた、と思っている。

ゆめみぐさでは廊下の幅を3メートル取っている。通れるだけの通常の廊下の幅にしてみると、ドアを開けて廊下へ出ると、そこでは挨拶しかない。それを、幅を倍にして、通路だけではない何かに使える「空間」にした。テーブルなどを置いて居間のようにしている。

25年もやっているといろんな人と知り合いになっている。

「ふぐ季節料理 楽楽楽さんらく」が、ゴジカラ村ケアハウスに入っている。

高齢者は、食事が楽しみ。私たちのさくらでも同じようにしたい。

施設によっては、「自分で食べてみてよ」と言いたくなる酷い食事のところもある。自分が入りたい施設にしたい、ということで、さくらでは、ワンディシェフ方式で、工夫して、スタッフが食事を作っていた。でも、休むと代わりの人になり、経費がかかる割には味が良くないこともあった。

そこで、スタッフの配置や味を心配しなくていいように、ワタミのような弁当ではなく、温かいものは温かく、旬のものを提供する、「さんらく」にした。食事の料金は1日1,500円。それをそのまま、「さんらく」に渡す。料理は「さんらく」の板さんが造る。板さん以外のスタッフの2人のうち一人は、さくらから出す。電気・ガス・水道と、人件費の1人分は、さくらが持つ。美味しいものを食べてもらいたい。

3階ゆめみぐさの入居者にも、朝食と夕食は、1階に降りて来てもらって、食べてもら

う。できるだけ部屋から外に出るためだ。1階はディサービスをしているので、昼食は3階で食べる。1階に降りて来るときは、みんな誘い合って降りて来る。

朝10時に開く、モーニングサービスの無い、喫茶店に週1回行く。薫り高いコーヒーをゆったり楽しむ。買い物も月1回。そういう楽しみがある。

自分の家だったら、門灯がある。なので、ここでは、門灯のように各部屋のドアに照明を付けている。施設のネームプレートではなく、表札をつくり、きちっと付けさせている。

ふぐ季節料理 楽楽楽さんらく

<http://fugu-sanraku.com/>

ゴジカラ村 <http://gojikaramura.jp/show/index>

交ざり合い

みんなで交ざって夏祭りもしている。

祭りには、ボランティアも来てもらう。自分の夫さえ分からなくなっている人たちも、フラダンスやアコーディオン伴奏の歌などを楽しみにしている。

名東区西山にあった生活協同組合の店舗が閉店した。その後、その跡地で、月2回「虹の市場」を開いている。その「虹の市場」の人たちが、市場で売れ残ったものを、リヤカーを引いて、さくらに売りに来る。さくらの住人たち、私たちも、野菜を買う。互いに相乗効果がある。

費用のこと

さくらが参考にした、ぐる一ふ藤では、入居一時金が700万円、家賃が10万円、と入居者にとっては費用が高額だ。

自分で出せるかな?、と考えた。そこで、さくらの、サービス付き高齢者向け賃貸住宅ゆめみぐさでは、一時金ではなくて、敷金にした。

サービス付き高齢者向け賃貸住宅には、1戸あたり100万円の国の補助がある（さくらは、制度ができる1年前だったので50万円だったが）。

2階が18戸、3階が15戸で、合わせて、1,300万円いただいた。これを使って準備ができた。スタッフ10名の2ヶ月間の研修、机などの家具や食器などの費用にした。

入居費用にも工夫をした。例えば、ベネッセだと、一時金3,000万円、家賃15万円だと聞いている。さくらでは、敷金3ヶ月分と家賃1ヶ月分を前払い。1ヶ月7.5万円で、30万円。「敷金」は、退居するときに清算する。預かっているだけ。これなら払えるのではないかという額にした。現在は、入居待ちの人が居るほどになった。

さくらでは

さくらのスタッフで働いている理学療法士さんのまだ小さな子がボランティアできている。赤ちゃんがボランティアとはどういうことか。脳梗塞で右麻痺の人がいる。手が動かない人が、2ヶ月半くらいの赤ちゃんを抱き上げた。落としちゃいけないと、手が動いていた。母性本能だろうか。小さな子どもが、高齢者の癒しになっている。

高齢者と接した小さな子どもは、やさしい子に育つ。今、子どもが5人居る。もっと、もっと多くの子が育つといい。こうした施設では、祭日、休みも無い。なので、小さな子ども達にも、ボランティアとして来てもらう。

グループホームに居る人たちは、本当にいい笑顔をしている。

みんなが笑顔で生活できて、みんなが気持ちよく働ける、環境を作っている。

地域資源の活用 ディサービス大治

空き家が増えている。

広くて、釘1本使っていない古民家もある。



ディサービス大治 さくらホームページより



ディサービスさくら100 さくらホームページより

そういうところを、バリアフリーにしないで、そのまま使う。日常生活の中で、家に帰ったとき、転ばないように、バリアを越える工夫をしてもらおう。

ニューヨークやワシントンのNPOで、「どこのNPOでも、代表者が全部やっちゃっている。役割分担しなさい」と言われた。これはやれる、と思えたが、もう一つ。そして、「金が要る時には、金を使いなさい」と聞かされた。が、そんなこと言っても、金も無いし。

介護保険は、本当にありがたい。任意団体の時は、さくらに入るお金は、1時間100円だった。いつも赤字だった。私は、赤字の間は給料無し。それでも、続けていたので、介護保険に繋がった。

そういう活動の中で、ホームページを立ち上げた。作るならきちっとしたものをつくり

たいと、180万円貯めて、プロに頼んで、ホームページを作った。

そのホームページを見た会社が、寄付をしないと、毎年寄付してくれる。

寄付者の中から、家を使って欲しいと話しがあった。大治町の老人夫婦が住んでいる建物で、管理できなくなっている。自分たちはマンションに住むので、ここをさくらで使って欲しい。その建物を見た時、料亭か？と思えるようなりっぱな作りで、とんでもない、家賃払えない、と思った。さくらのホームページを見て、理念を理解してもらっていた。私は、「10人規模なので、家賃は15万円です。」と言った。すると、「あなたが15万円と言うなら、1万円減らして、14万円でもいいですよ。」と。でも、名東区からは遠い、と思っていたが、よく考えてみると、車でなら、高針インターから15分でいける距離だった。ご夫婦には娘さんがいて、娘さんに、「あなたが管理者になるなら引き受けます。」と、これで決まった。ここの人に関わってもらうのが安心だ。

この3月から、ディサービス大治としてやらせてもらっている。地域の人たちからは、一度は入ってみたいお家だったということで、アツと言う間に定員いっぱいになった。

宮大工が寝泊まりして3年掛けて造った、築20年の家。地域の財産で、こんな素晴らしいものを壊すわけにはいかない。

ディサービス極楽

ここは、最初にディサービスを始めたところだ。

当時、築5年の民家だった。

私が、おじいちゃんのケアマネージャーをしていた。1人では生活できなくなり、息子がおじいちゃんを引き取り、空き家になるので、使ってくれるか？、ともちかけられた。

そこで、ディサービスの施設に使うことになった。管理者には、お嫁さんになってもら

って、3万円の家賃から始めた。



ディサービス極楽 さくらホームページより

ここでは、庭で野菜作りをし、収穫した野菜で、野菜ジュースを作って、それをみんなで飲むところから、このディサービスの1日が始まる。

おじいちゃんの息子さんが、もう1ヶ所貸してくれた。息子さんは、日立に勤めていて60歳で定年になった。まだ5年働けるが、貸している民家でおやこ広場のボランティアをしている。

空き家が増えているようで、「ここを利用してもらえないか。」という話がいくつかある。空き家を使いたいという要望が出てきている。地域の資源を、どのように活用していくかが大事だ。



ここで、パワーポイントを使っただけの主題のお話は一旦終わりました。

その後、「さくらだより」の記事からのお話、東北支援のお話が続きました。